様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月　７ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０６５９８

研究課題名（和文）戦前・戦災復興都市計画にみる景観形成理念とその現代的意義の検証に関する研究

研究課題名（英文）A Study of Landscape Planning Ideas and Trends in Prewar and Postwar Urban Planning

研究代表者
川崎　雅史（Kawasaki, Masashi）

京都大学・工学研究科・教授

研究者番号：２０１９５０７７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：戦前戦後の日本全国の主要都市における都市計画公園および風致地区指定の計画理念について、その計画理念と事業化の過程を把握するための研究を進めた。①京都市の風致地区内の開発ならびに開発許可運用の実態解明を進め、風致の保全と開発の実態を明らかにした。②大阪市については、戦前から戦後にかけての河川沿空間の整備の実態解明を進め、旧淀川・大川沿いの公園整備と、戦後の大阪市内の緑道整備の実態を明らかにした。③戦災復興都市計画により河川沿い緑地が計画された7都市（前橋市、富山市、呉市、広島市、宇部市、鹿児島市、徳島市）について、計画の特徴と実施過程に関する調査を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
戦前・戦後の都市整備の実態解明は、日本の国土・都市の成り立ちを知る上で不可欠である。近代以降の都市の拡大と郊外の開発、道路や河川の整備、工業化、景勝地の保全、戦災後の復興など、都市の形成をめぐる様々な要因に対し、どのような都市像、景観像が目指され、また、実現されてきたのかを適切に理解し検証しなければ、計画の成熟は困難である。この検証作業を通じてはじめて、現代における都市施策の効果と限界を適切に検証し、これからの計画および制度設計の検討材料とすることが出来る。

研究成果の概要（英文）：This research clarified ideas and trends in urban planning focusing on the operation of the city planning park and scenic area system in major cities throughout Japan during the prewar and postwar periods. (1) We clarified the development process and the development permit system in Kyoto City, and the actual situation of the preservation and development of Kyoto's scenic beauty. (2) We clarified the actual situation of the development of the space along the river in Osaka City from prewar to postwar periods. We clarified the actual conditions of the development of parks along the former Yodo River and Okawa River and the development of greenways in Osaka City after the war. (3) We conducted a survey on the characteristics of the plans and the implementation process in seven cities (Maebashi, Toyama, Kure, Hiroshima, Ube, Kagoshima, and Tokushima) where riverside green spaces were planned under the urban planning for war reconstruction.

研究分野：景観デザイン

キーワード：景観　都市計画　都市デザイン　公園　河川整備

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近代のわが国の都市においては、急速な都市化の過程で、緑地や歴史的景観（当時は「風致」という語が一般的に用いられた）が失われることへの危惧から、1919（大正 8）年に制定された旧都市計画法において、都市内外の自然美を維持保全し活用することを目的として風致地区制度が導入され、多くの都市で風致地区の都市計画決定が進められた。また、風致の保全や積極的活用を目指して、ほとんどの都市において都市計画公園が計画立案され、都市計画決定が行われた。

風致地区は多くの場合、現代まで引き継がれて運用され、都市計画公園の都市計画決定も修正を加えながらも現代まで継承されているケースが多い。ただし、公園に関していえば、用地買収の困難などにより事業化が進まない場合も多く、都市計画決定の見直しも検討されつつある。

都市計画は「百年の計」とも言われるが、実際には計画策定当初の理念が忘れられているケースが少なくない。都市計画史研究としても、都市計画の決定当初の計画理念や意図の詳細を明らかにされているのは、一部の都市に限られ、全国の都市を対象にした研究の蓄積は世界の標準からみても遅れている。こうした都市計画黎明期の計画理念についての体系的な理解と、その実現や継承性についての検証が進んでいないことは、学術研究上からみても、これからの都市施策の制度設計の必要上からみても、大きな問題である。

以上の問題意識から、申請者は公園・緑地の形成や、風致の保全・活用に積極的であった都市を対象に研究を進めた。本研究が目指すのは当時の社会状況や計画理念、目的や意図を知り、その理念がどのように形成され、また、どのように実現に至ったか（もしくは至らなかったか）を明らかにすることであり、これにより現代における都市計画の運用のあり方を再び検証し、これからの都市施策、景観施策の立案や制度設計の基礎とすることを目指す。

２．研究の目的

本研究は、戦前から戦災復興期にかけての都市計画に関わる事例を取り上げ、都市計画公園緑地および風致地区指定による景観形成に関わる計画理念の内容と、それらが実際の都市形成に与えた影響を検証することを目的とする。具体的には、都市計画関係史料の他、多数の関連資料を用いて、これらの計画がどのような主体によってどのような社会的背景のもと立案されたか、また、その計画がどのように事業化され、実現に至ったかについて詳細を明らかにし、都市計画の意義と効果を検証することを目的とする。具体的に明らかにする内容は以下の通りである。

１）戦前戦後の大阪・旧淀川における公園形成過程
２）戦後の大阪における緑道整備の実態
３）京都における風致保全と開発の実態
４）戦災復興都市計画による河川沿緑地形成の実態

３．研究の方法

研究の方法は、主として文献史料の収集と分析である。具体的には、都市計画関係の行政文書、各種委員会議事録、新聞史料、古写真等の景観関係資料を悉皆的に収集し、研究を行った。特に行政史料と新聞資料を収集した上での一次史料の発掘と整理において多大な労力が必要となり、これに重点的に取り組んだ。

４．研究成果

本研究の研究成果は以下の通りである。

１）戦前戦後の大阪・旧淀川における公園形成過程の解明

旧淀川の一つである大川における河岸利用の変遷と河岸公園の形成過程を明らかにした。具体的に明らかにした内容は以下の通りである。

① 淀川下流改修工事にともなう河岸埋立と，その工業・公園利用の実態、
② 1928 年の総合大阪都市計画の原案において示された大川沿いの河岸緑地構想の内容と、工業利用のため公園計画案を縮小した経過、
③ 戦災復興都市計画における河岸緑地計画の策定と、明治 100 年記念事業によるその実現の経緯、

これらを通じて、大川沿いの河岸公園の実現には、河川改修による埋立地利用、都市計画によ

る公園計画の策定、河岸の水運利用の衰退と工業から住宅への土地利用の変化、明治 100 年記念事業資金の活用、が大きな役割を果たしたことを明らかにした。

２）戦後の大阪における緑道整備の実態解明

大阪の都心部では、総合大阪都市計画（1928 年決定）にみるように、戦前から「公園系統」という概念のもと、系統立った公園整備による都市の骨格形成が図られていた。なかでも、公園間を連絡する「公園道路」の都市計画決定は戦災復興都市計画にも引き継がれ、公園系統の形成が図られたものの、旧淀川沿川や今川沿川等を除いて、その多くは計画の変更や廃止となり、実現に至らなかった。一方、1960 年代以降、ニュータウン開発において歩車分離システムをもつ歩行者専用道路や緑道の整備が進み、公園緑地系統の計画が再び脚光を浴び、既存市街地の公園緑地の計画的整備へと展開した。高度経済成長期のモータリゼーションの進展や交通事故や騒音等の自動車公害の発生などによる都市環境の悪化を背景に、全国的に公園緑地の見直しが進み、1970 年代以降に居住環境の回復や人間のための都市空間整備が進められた。このような公園緑地計画システムの転換の先駆けとして、大阪市土木局による「MILE 道路計画」（1971 年）の策定と同計画に基づく緑道整備があり、ここには河川・公園・道路の緑道を包括する総延長 94.3㎞の緑道整備計画が含まれた。実際に大阪市では 1990 年までに総延長 64.7㎞ の緑道整備を実現した。本研究では大阪市における緑道整備計画の策定過程、ならびにその整備手法と事業手法の特徴を明らかにした。

３）京都における風致保全と開発の実態解明

戦前京都における風致行政の実態について、戦前期の京都府行政文書・風致地区関係文書の資料調査に基づき、現況変更行為に対する指導内容や許可・不許可の判断事例、風致行政における景観規制・誘導のあり方を解明した。また、眺望に関わる開発行為許可を中心にしながらも、大規模建造物や大規模な宅地造成、公共事業による整備などに着目して研究を進め、京都型といえる特徴のある風致行政の実態を明らかにした。

戦前の京都では、歴史的市街地や周辺道路からみた眺望を保全するため、一定の判断基準に基づき景観形成・誘導が行われていた。また、風致を損なう開発行為に対しては相当程度の変更の可能性を含みつつ、積極的に風致を良くするものについても助言が行われていた。例えば、宅地造成の際には、周囲の道路などの平地方面から望見される場所において、適当な樹林地帯を設け、斜面地に植栽を施すなどの指導が行われていた。具体的には、①土地形質の保存や樹木の保存、②建設位置の制限、③空き地の確保、④法面や空地等の緑化、⑤形態意匠、色彩の制限などが行われていたことを実証的に明らかにした。

４）戦災復興都市計画による河川沿緑地形成の実態解明

戦災復興都市計画により河川沿い緑地が計画された 7 都市（前橋市、富山市、呉市、広島市、宇部市、鹿児島市、徳島市）について、計画の特徴と実施の過程について研究を行った。広島市においては河川沿い緑地の構想が種々の人々によって唱えられ、河川の美を生かすために計画されたが、これに対し呉市、宇部市、鹿児島市、徳島市においても「都市美」や「美観」、「観光」に寄与するねらいをもって河川沿い緑地計画されたことを明らかにした。また、人工河川沿いに公園道路が計画された前橋市と富山市においては、水辺を散歩道として確保して公園間をつなぐという構想の存在を明らかにした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 岩本一将，山口敬太，川崎誠登，川﨑雅史	４．巻 75-1
２．論文標題 明治・大正期の電気軌道敷設と都市基盤形成ー1900-1920年開業の地方16都市を対象としてー	５．発行年 2019年
３．雑誌名 土木学会論文集D2（土木史）	６．最初と最後の頁 67-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2208/jscejhsce.75.67	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 谷川陸，山口敬太，川﨑雅史	４．巻 14
２．論文標題 戦前期京都風致地区における大規模建造物及び公共施設の風致の維持・創出の実態	５．発行年 2019年
３．雑誌名 景観・デザイン研究講演集	６．最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三輪潤平，山口敬太，川﨑雅史	４．巻 17
２．論文標題 戦災復興都市計画における河川沿い緑地計画に関する研究	５．発行年 2018年
３．雑誌名 都市計画報告集	６．最初と最後の頁 277-282
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 黒島大樹，山口敬太，川﨑雅史	４．巻 57
２．論文標題 都市における緑道の計画・形成に関する歴史的考察	５．発行年 2018年
３．雑誌名 土木計画学研究・講演集	６．最初と最後の頁 29-04
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 谷川陸，山口敬太，川﨑雅史	4．巻 53-3
2．論文標題 昭和初期の京都都市計画風致地区における眺望に基づく行為許可と行政指導-現状変更許可申請書(昭和6-8年)にみる京都府の風致行政-	5．発行年 2018年
3．雑誌名 都市計画論文集	6．最初と最後の頁 289-296
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11361/journalcpij.53.289	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 A Spatial Analysis of the Pond Design to Create Okufukasa, a Sense of Depth: A case study of Katsura Imperial Villa	4．巻 43-3
2．論文標題 Zhang Yuan, Keita Yamaguchi, Masashi Kawasaki	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Landscape Research	6．最初と最後の頁 380-399
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/01426397.2017.1315385	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 谷川陸，山口敬太，川﨑雅史	4．巻 13
2．論文標題 戦前の京都都市計画風致地区内における建築物等の行為許可の実態について	5．発行年 2017年
3．雑誌名 景観・デザイン研究講演集	6．最初と最後の頁 261-267
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 黒島大樹，山口敬太，川﨑雅史	4．巻 13
2．論文標題 大阪市の既存インフラ空間再編による歩行者空間整備に関する歴史的研究	5．発行年 2017年
3．雑誌名 景観・デザイン研究講演集	6．最初と最後の頁 309-316
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Wang Yongcheng、Yamaguchi Keita、Wong Yiik Diew	4．巻 99
2．論文標題 The multivalent nexus of redevelopment and heritage conservation: A mixed-methods study of the site-level public consultation of urban development in Macao	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Land Use Policy	6．最初と最後の頁 105006～105006
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.landusepol.2020.105006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 谷川陸，山口敬太，川﨑雅	4．巻 76
2．論文標題 戦前期京都風致地区内の宅地造成の許可・指導にみる景観形成と技術的方策	5．発行年 2020年
3．雑誌名 土木学会論文集D1（景観・デザイン）	6．最初と最後の頁 44～58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2208/jscejaie.76.1_44	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山口　敬太 (Yamaguchi Keita) (80565531)	京都大学・工学研究科・准教授 (14301)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関